



五小だより



五小ブログ



五小ボランティア

10月号

令和6年9月30日

国分寺市立第五小学校

042-322-0045

校長 齋藤 晃

ふるさと国分寺に学ぶ子どもたち

研究主任 加藤 美穂

国分寺と私との出会いは、何十年か前の学生時代にまで遡ります。大学への通学に国分寺駅を利用していました。その頃の国分寺駅は（今となっては信じられないのですが）、駅ビルもタワーマンションもなく、特別快速も止まらず、ホームの数も今より少ない、とても小さな駅でした。国分寺とは「何もない、のどかな所」だと、当時若かった私は思い込んでいたのです。

その後、国分寺市の小学校に勤めることになったのですが、きっと国分寺とは縁があるのでしょう。市内での勤務歴は長く、もう通算20年以上にもなります。その間、市内の様々な場所へ行く機会があり、国分寺は、知れば知るほど「魅力満載の、すてきな所」だということが分かってきました。五小周辺にも広がる、豊かな恵みをもたらす畑。給食には、新鮮な「こくベジ」が毎日登場します。閑静な住宅街と広い空。交通も便利ですが、少し足を延ばせば、お鷹の道など自然も豊かです。また、天平時代から続く歴史に直接ふれることもできます。そして何よりも、地域で活躍されている方々。五小の子どもたちを、多くの場面で支えてくださっています。こんなにすてきな国分寺の良さを、子どもたちにもたくさん知ってほしい、気付いてほしいと願わずにはられません。

さて、今年度から、市内小中学校で「国分寺学」の学習が始まりました。「国分寺学」は、子どもたちが地域に親しみ、地域に学び、地域を考えていく学習です。そうした学びを通して、子どもたちの地域を大切にすることを育むとともに、子どもたちがよりよい地域づくりに主体的に参画していくことをねらいとしています。

本校でも、「国分寺学」のカリキュラムを全学年で作成し、子どもたちが地域と関わりながら学習を進めていけるようにしています。一例を挙げましょう。2年生の学習「町の『すてき』を見つけよう」では、子どもたちが知っている近所の「すてき」な場所や人・物などを友達と紹介し合うところから、活動が始まりました。子どもたちの関心は広がり、6月には「すてき」を見に行くために町探検へ行き、10月は「すてき」をもっと詳しく調べるために再度、町探検へ出かけることになりました。10月の探検では、商店街や、農家、神社、保育園、さらには公園を管理する市役所防災課など、地域の多くの方々が、子どもたちのインタビューに応じてくださる予定です。子どもたちの地域への思いは、こうした貴重な体験によって、更に高まっていくに違いありません。

学校と地域が一体となって、「ふるさと国分寺」に学ぶ子どもたちを温かく見守り、共に育てていきたいと思えます。地域・保護者の皆様には引き続きご協力をいただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。